

## Injury Alert (傷害速報)類似事例

電気ケトルによる両上肢・胸部の熱傷 (No.28 電気ケトルによる顔面・胸部・上肢熱傷の類似事例 5)

事例	基本情報	年齢：0歳 8か月 性別：女児 体重：8.4kg 身長：72cm
	家族構成	父 (25歳)、母 (24歳)
	発達・既往歴	特記すべきことなし、伝い歩き可、独歩不可
臨床診断名		Ⅱ度熱傷
医療費		入院総額 465,000円 外来総額 26,360円
原因対象	対象名称	電気ケトル (容量 1.5 L)、転倒防止機能なし、電気コードなし
	入手経路 使用状況	ミルク用に毎日使用していた。ケトルをいつ購入したかは不明であった。
発生状況	発生場所	こたつテーブルの上の中央部にケトルを置いていた。普段も同じ場所に置いていたとのことであった。
	周囲の人 周囲の環境	母がトイレに行っていた間に自宅の居間で発生した。受傷の瞬間の周囲の目撃はなかった。
	発生年月日	2020年9月X日(水) 午前9時45分
	発生時の 詳しい様子 受診までの経緯	ミルクの準備のため、母はこたつテーブルの上においた電気ケトルに電源を入れ、トイレへ行った。児の泣き声を聞いてトイレから居間に戻ると、ケトルが倒れて机の上に熱湯が薄く溜まった状態になっていた。児は立位の状態で前胸部がテーブルの縁に密着し、両上肢の前腕がテーブル上にできた湯溜まりの中に浸かっていた状態であった。状況から、児が電気ケトルを倒したと思われる。両上肢の熱傷に対して、流水で数分間冷却した後、医療機関Aへ救急搬送された。

<p>医療機関受診時以降の治療経過 転帰</p>	<p>同日 10 時 40 分頃、医療機関 A の皮膚科を受診した。受診時のバイタルサインに異常を認めなかった。両上肢と胸部を合わせて 10～15%のⅡ度熱傷（図 1）と判断され、同日入院となった。創部の洗浄と軟膏塗布を連日実施したが、入院 3 日目に創部の感染兆候を認めたため、入院 10 日目までの 8 日間、抗菌薬の静脈注射を行った。入院 14 日目に、高次医療機関 B にて皮膚移植の適応はないと判断された。その後、医療機関 A において保護者に対し創部処置の指導が行われた。受傷から約 1 か月後の退院時には創部の感染兆候はなく、上皮化を認めていた。退院 2 日後に外来を受診し、経過良好なため終診となった。</p>
<p>キーワード</p>	<p>熱傷、電気ケトル</p>



【図 1-a】医療機関受診時の創部。両上肢に水疱形成を伴う熱傷を認めた。



【図 1-b】 医療機関受診時の創部。両上肢に水疱形成を伴う熱傷を認めた。



【図 1-c】 医療機関受診時の創部。胸部に水疱形成を伴う熱傷を認めた。